

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）大学院人文社会科学研究科 ダイバーシティ科学専攻（M）

1. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」p. 22 の「（7）専攻設置による社会的・学術的貢献」において、「単に欧米モデルを移植するのではなく、日本独自の社会課題に対応する新たな学問領域を構築する」ことを掲げているが、本専攻において、具体的にどのように日本独自のモデルを構築していくのか、明示すること。（改善事項） 2
2. 本専攻の設置の目的として、「DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン：多様性・公平性・包摂性）に関する高度かつ幅広い知識を基盤とし」「リーダーシップやマネジメントの能力を発揮しながら他者との協働をはかり、実践的な解決策を創出できる人材を育成する」ことを掲げており、リーダーシップやマネジメント能力を涵養（かんよう）するため「ダイバーシティマネジメント論」や「ダイバーシティリーダーシップ論」といった授業科目が配当されているものの、これらの科目は選択科目となっていることから、これらの科目を選択しない学生が、具体的にどの科目においてこれらの能力を有する人材を養成するのか判然としないため、明示すること。（改善事項） 4
3. 基盤課題科目「平等／差別と法」について、本専攻の設置の趣旨に鑑み、DEI に関する法に関する観点の内容を充実させること。（改善事項） 8
4. 調査スキル科目「社会調査法A」及び「社会調査法B」について、一般的な調査手法に関する授業科目となっているが、本専攻の設置の趣旨に鑑み、DEI に関する課題を踏まえた内容となるように、科目の内容を改善すること。（改善事項） 11
5. 基盤課題科目「生物多様性とネイチャーポジティブ」や専門課題科目「バイオダイバーシティ論」等の生物多様性について扱う授業科目について、当該科目と DEI との関連性と、これらの科目の位置づけを明示すること。（改善事項） 14
6. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。（是正事項） 16

1. 「設置の趣旨等を記載した書類 (本文)」 p.22 の「(7) 専攻設置による社会的・学術的貢献」において、「単に欧米モデルを移植するのではなく、日本独自の社会課題に対応する新たな学問領域を構築する」ことを掲げているが、本専攻において、具体的にどのように日本独自のモデルを構築していくのか、明示すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、本専攻において具体的にどのように日本独自のモデルを構築していくのかを、「設置の趣旨等を記載した書類 (本文)」 p.22 の「(7) 専攻設置による社会的・学術的貢献」 p.22-23 において明示するよう、追記・修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (p.22-23)

新	旧
(7) 専攻設置による社会的・学術的貢献 i) 国内及び国際的な学問への貢献 日本においてダイバーシティ研究の大学院教育を設置することは、<u>単に欧米のモデルを移植するのではなく、日本独自の社会課題に対応する新たな学問領域を構築することを意味する。</u>本専攻では、この「日本独自のモデルの構築」を、以下の三層で体系的に展開することで具体化する。 <u>第一に、日本社会に根づく協調性を重視する文化や、制度に内在する同質性の要請が、多様な生き方を持つ人々に制度的不利益をもたらしている現状を踏まえ、それらを批判的に検討しつつ、欧米の理論を再構成した理論的枠組みを構築する。インターセクショナルリティ理論と日本特有の制度的排除を結びつけた視点から、交差する差別構造の分析と日本型DEIの可能性を探究する。</u>本専攻では、<u>必修科目である共通理論科目を横断的に学ぶことにより理論的基盤を形成し、それを専門課題科目の実践的探究 (フィールドワーク</u>	(7) 専攻設置による社会的・学術的貢献 i) 国内及び国際的な学問への貢献 日本においてダイバーシティ研究の大学院教育を設置することは、<u>単に欧米のモデルを移植するのではなく、日本独自の社会課題に対応する新たな学問領域を構築することを意味する。</u>例えば、日本の労働市場におけるジェンダー格差、外国人労働者の受け入れ、高齢社会におけるダイバーシティのあり方には、日本特有の課題があり、そこに焦点を当てることで欧米の研究とは異なる視点を提供できる。 <u>また、個人主義を基盤とする欧米のダイバーシティ推進と、集団主義が強調される日本におけるダイバーシティの実践は、そのアプローチや課題が大きく異なる。</u>例えば、日本では「多様性の確保」だけでなく、「多様性の中でどのように集団主義の限界を乗り越え協働し、価値を創造するか」という視点がより重要となるかもしれない。このような研究は、日本国内のダイバーシティ推進に貢献す

<u>やアクションリサーチ)を通じて展開・検証 する中で独自の理論構築へとつなげていく。</u> <u>第二に、専門課題科目では、ジェンダー格 差、高齢化、移民・外国ルーツの人々との共 生など、日本固有の課題に取り組む実証的・ 実践的研究を展開し、地域や企業との協働型 PBL (Project-Based Learning) を実施する。</u> <u>第三に、実践知の蓄積と社会実装を重視 し、修士論文や特定課題レポートにおい て、日本型 DEI モデルの構築と政策提言を 目指す。これは、専門課題科目で取り組ん だ DEI 課題の解決プロセスを踏まえ、課題 研究演習Ⅲ・Ⅳにおいて集約・理論化され る。</u> <u>これにより、学術と社会実践の両面から 「日本発のダイバーシティ科学モデル」を 構築していくことを目指す。このような日 本社会の文脈に即した DEI 推進の理論と実 践の構築は、国際的なダイバーシティ研究 の発展にも寄与する。</u>	<u>るだけでなく、国際社会に対しても新たな視 座を提供するものである。</u> <u>本専攻では、日本社会の文脈に即した新 たな DEI 推進の理論と実践を構築し、国際 的なダイバーシティ研究の発展にも寄与 することを旨とする。</u>
--	---

2. 本専攻の設置の目的として、「DEI (ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン：多様性・公平性・包摂性) に関する高度かつ幅広い知識を基盤とし」「リーダーシップやマネジメントの能力を発揮しながら他者との協働をはかり、実践的な解決策を創出できる人材を育成する」ことを掲げており、リーダーシップやマネジメント能力を涵養 (かんよう) するため「ダイバーシティマネジメント論」や「ダイバーシティリーダーシップ論」といった授業科目が配当されているものの、これらの科目は選択科目となっていることから、これらの科目を選択しない学生が、具体的にどの科目においてこれらの能力を有する人材を養成するのか判然としないため、明示すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、「ダイバーシティマネジメント論」及び「ダイバーシティリーダーシップ論」を選択しない学生について、具体的にどの科目において「リーダーシップ」及び「マネジメント能力」を養成するのかを、「設置の趣旨等を記載した書類 (本文)」の「4. 教育課程の編成の考え方及び特色」p.27 及び「(2) 教育課程の特色」p.32-34 において明示するよう、追記・修正した。

なお、本専攻では、「リーダーシップ」及び「マネジメント能力」を、単なる統率力や管理能力としてではなく、DEI を基盤とする協働的・創発的な実践力と位置づけており、「現代的課題と人権」(共通理論科目)、専門課題科目及び課題研究演習がこれらの能力の養成を担う科目である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (p. 27)

新	旧
4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程編成の考え方 本専攻設置の目的は、DEI に関する高度かつ幅広い知識を基盤とし、DEI の視点から具体的な課題を発見・分析するとともに、リーダーシップやマネジメントを発揮しながら他者との協働をはかり、実践的な解決策を創出できる人材を育成することにある。<u>ここでいう「リーダーシップ」及び「マネジメント能力」を、単なる統率力や管理能力としてではなく、DEI を基盤とする協働的・創発的な実践力と位置づけており、教育課程全体を通じてその涵養を目指す体系的設計を行って</u>	4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程編成の考え方 本専攻設置の目的は、DEI に関する高度かつ幅広い知識を基盤とし、DEI の視点から具体的な課題を発見・分析するとともに、リーダーシップやマネジメントを発揮しながら他者との協働をはかり、実践的な解決策を創出できる人材を育成することにある。そのため、学位を認める水準としてディプロマ・ポリシーを以下のとおり定める。

いる。そのため、学位を認める水準としてディプロマ・ポリシーを以下のとおり定める。	
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (p. 32-34)

新	旧
i) 共通理論科目 (必修科目: 1 年次前期) 「現代的課題と人権」をはじめとし、インターセクショナルリティ論、ケア論、クィア理論、社会運動論、障害学、多文化共生論のすべてを履修する。これらの科目は、国際的かつ最先端の理論を理解するためのものとなる。 「現代的課題と人権」は、本専攻に入学した大学院生が、現代社会の人権課題における DEI の視点の重要性と共に、インターセクショナルリティ論、ケア論、クィア理論、社会運動論、障害学、多文化共生論を関連させ、横断的に考えることができるための機会をつくり出す。<u>初年次に対面で行われる本科目は、双方向的な議論によって協働的姿勢を実践的に身につける場であり、リーダーシップ及びマネジメント能力育成の出発点となる。</u> 「現代的課題と人権」のみ、対面（リアルタイム遠隔を含む）で実施するが、上記の他の科目はすべてオンデマンドで実施する。ただし、オンデマンド科目では、各自が取り組む課題を設定する。 (略) iv) 専門課題科目 (選択必修科目: 2 年次) 学生の課題意識の深化と研究課題の明確化、その課題の具体的な解決を図るための方策を探究し、修士論文及び特定課題レポート作成の基礎とする。それぞれの研究課題に応じ、最低 1 科目はⅠとⅡを通して履修する。 Ⅰでは DEI の視点から自らの研究領域における理論を深め、それぞれの研究領域、フィールドにおける DEI 実践の課題を追究し、実	i) 共通理論科目 (必修科目: 1 年次前期) 「現代的課題と人権」をはじめとし、インターセクショナルリティ論、ケア論、クィア理論、社会運動論、障害学、多文化共生論のすべてを履修する。これらの科目は、国際的かつ最先端の理論を理解するためのものとなる。 「現代的課題と人権」は、本専攻に入学した大学院生が、現代社会の人権課題における DEI の視点の重要性と共に、インターセクショナルリティ論、ケア論、クィア理論、社会運動論、障害学、多文化共生論を関連させ、横断的に考えることができるための機会をつくり出す。 「現代的課題と人権」のみ、対面（リアルタイム遠隔を含む）で実施するが、上記の他の科目はすべてオンデマンドで実施する。ただし、オンデマンド科目では、各自が取り組む課題を設定する。 (略) iv) 専門課題科目 (選択必修科目: 2 年次) 学生の課題意識の深化と研究課題の明確化、その課題の具体的な解決を図るための方策を探究し、修士論文及び特定課題レポート作成の基礎とする。それぞれの研究課題に応じ、最低 1 科目はⅠとⅡを通して履修する。 Ⅰでは DEI の視点から自らの研究領域における理論を深め、それぞれの研究領域、フィールドにおける DEI 実践の課題を追究し、実

実践方法を検討、実施を準備する。Ⅱでは、フィールドワーク、アクションリサーチ等の実施、分析、評価を進め、修士論文、特定課題レポートの基盤をつくる。 <u>本科目は、各学生が自ら設定した研究課題に基づき、フィールドにおける関係者との協働やアクションリサーチを通じて、課題解決のためのプロセス全体をマネジメントすることが求められる。これにより、実地における調整力・合意形成力・評価力といったマネジメントの実践的スキルが涵養される。</u> 本科目群は、大学院生の研究課題に応じ、複数の教員が指導に関わり、各受講学生の主体性を重視した報告と討論を中心に共同的な学びとして展開される。 v) 課題研究科目（必修科目：1～2年次） 本科目では、大学院生間の課題の共有、ディスカッションの機会を積極的につくり、それぞれの専門分野においてDEIの視点がどのように活かされているのかについての共有を促していく。研究テーマの探索、先行研究のレビュー、研究計画の作成とその具体化、研究の途中経過のまとめ、年4回程度の研究発表も含めた修士論文作成の指導を、主指導教員及び副指導教員を中心に、関連する他の教員及びフィールド先と共同で行う。これら論文作成過程における共同の学びは、より実践的なDEI実現のイメージを広げることにつながる。 課題研究演習Ⅰ・Ⅱ（1年次）では、共同的な学びの機会によって、共通理論科目、基盤課題科目をさらに深める機会をつくり出し、それぞれの課題に対する柔軟な思考能力、分野横断的かつ複眼的な視野の涵養を図る。それによって、自らの課題意識を深化させるとともに、主指導教員及び副指導教員による論文作成等に必要なスキルの修得に向	実践方法を検討、実施を準備する。Ⅱでは、フィールドワーク、アクションリサーチ等の実施、分析、評価を進め、修士論文、特定課題レポートの基盤をつくる。 本科目群は、大学院生の研究課題に応じ、複数の教員が指導に関わり、各受講学生の主体性を重視した報告と討論を中心に共同的な学びとして展開される。 v) 課題研究科目（必修科目：1～2年次） 本科目では、大学院生間の課題の共有、ディスカッションの機会を積極的につくり、それぞれの専門分野においてDEIの視点がどのように活かされているのかについての共有を促していく。研究テーマの探索、先行研究のレビュー、研究計画の作成とその具体化、研究の途中経過のまとめ、年4回程度の研究発表も含めた修士論文作成の指導を、主指導教員及び副指導教員を中心に、関連する他の教員及びフィールド先と共同で行う。これら論文作成過程における共同の学びは、より実践的なDEI実現のイメージを広げることにつながる。 課題研究演習Ⅰ・Ⅱ（1年次）では、共同的な学びの機会によって、共通理論科目、基盤課題科目をさらに深める機会をつくり出し、それぞれの課題に対する柔軟な思考能力、分野横断的かつ複眼的な視野の涵養を図る。それによって、自らの課題意識を深化させるとともに、主指導教員及び副指導教員による論文作成等に必要なスキルの修得に向
---	--

けた研究指導のもと、修士論文、特定課題レポート作成にあたっての理論的基盤を明確にする。 課題研究演習Ⅲ・Ⅳ（２年次）では、それぞれの専門分野における DEI 課題の探究・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめていく。本研究科指導教員と大学院生の専門領域の副指導教員、フィールド先との連携を図りながら、修士論文、特定課題レポートの完成を目指す。 <u>１～２年次にわたる「課題研究科目」は、学生間・教員間・フィールド先との共同作業を通じた学際的・実践的協働の場として機能する。研究計画の構築、進行管理、成果発表を含む一連のプロセスを通して、実践的リーダーシップの育成が体系的に行われる。</u>	けた研究指導のもと、修士論文、特定課題レポート作成にあたっての理論的基盤を明確にする。 課題研究演習Ⅲ・Ⅳ（２年次）では、それぞれの専門分野における DEI 課題の探究・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめていく。本研究科指導教員と大学院生の専門領域の副指導教員、フィールド先との連携を図りながら、修士論文、特定課題レポートの完成を目指す。
--	--

(改善事項) 大学院人文社会科学研究所 ダイバーシティ科学専攻 (M)

3. 基盤課題科目「平等／差別と法」について、本専攻の設置の趣旨に鑑み、DEI に関する法に関する観点の内容を充実させること。

(対応)

審査意見を踏まえ、DEI に関係する法に関する観点の内容を充実させ、基本計画書及びシラバスに追記した。

(新旧対照表) 基本計画書 (p. 28) 授業科目の概要

新					旧				
授業科目の概要					授業科目の概要				
(人文社会科学研究所ダイバーシティ科学専攻)					(人文社会科学研究所ダイバーシティ科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤課題科目	平等／差別と法		DEI の推進において重要な課題である男女間の格差や、性自認・性的指向、障害の有無、人種・民族・国籍、年齢を理由とした差別など、平等／差別をめぐる社会的な問題は、そのほとんどが法律をめぐる問題でもある。「等しいものを等しく扱え」(平等原則)は近代法の基本原理であるが、事の性質に応じた合理的な別異取扱いまでも禁止するものではない(場合によっては、実質的平等を達成するために、別異取扱いが要請されることすらある)。この講義では、DEI の理念に基づき、多様なマイノリティに対する法的取扱いとその限界を検討する。実際に問題となった様々な具体的事例を基に、判決や学説を学ぶことで、平等／差別の問題に対する法的な観点からのアプローチを身に付ける。 <u>インクルーシブな社会を構想する上での法の役割についても考察する。</u>		基盤課題科目	平等／差別と法		男女間の格差や、性自認・性的指向、障害の有無、人種・民族・国籍、年齢を理由とした差別など、平等／差別をめぐる社会的な問題は、そのほとんどが法律をめぐる問題でもある。「等しいものを等しく扱え」(平等原則)は近代法の基本原理であるが、事の性質に応じた合理的な別異取扱いまでも禁止するものではない(場合によっては、実質的平等を達成するために、別異取扱いが要請されることすらある)。この講義では、実際に問題となった様々な具体的事例を基に、判決や学説を学ぶことで、平等／差別の問題に対する法的な観点からのアプローチを身に付ける。	

(新旧対照表) シラバス (p. 45-47)

新		旧	
シラバス (授業計画)		シラバス (授業計画)	
開講科目名：平等／差別と法		開講科目名：平等／差別と法	
(略)		(略)	
授業科目の到達目標	授業が終了したときに、みなさんが以下の知識や能力を身に付けることを目標にします。 ①～④ (略) ⑤ <u>DEI の理念に照らし、法制度や判例のもつ構造的排除の側面を批判的に分析する視点を身につける。</u> ⑥ <u>障害者基本法、障害者差別解消法、LGBT 理解増進法、各自治体のパートナーシップ条例など、DEI に関連する個別の法令について、知識を深め、説明できるようになる。</u>	授業科目の到達目標	授業が終了したときに、みなさんが以下の知識や能力を身に付けることを目標にします。 ①～④ (略)
(略)		(略)	
授業キーワード	憲法、法の下での平等、形式的平等と実質的平等、アファーマティブ・アクション、パリティ、労働における平等、夫婦同氏制 (夫婦別姓)、同性婚、民族・人種、LGBT＋、DEI、差別禁止法	授業キーワード	憲法、法の下での平等、形式的平等と実質的平等、アファーマティブ・アクション、パリティ、労働における平等、夫婦同氏制 (夫婦別姓)、同性婚、民族・人種、LGBT＋
授業の内容	DEI の推進において重要な課題である男女間の格差や、性自認・性的指向、障害の有無、人種・民族・国籍、年齢を理由とした差別など、平等／差別をめぐる社会的な問題は、そのほとんどが法律をめぐる問題でもある。「等しいものを等しく扱え」(平等原則) は近代法の基本原理であるが、事の性質に応じた合理的な別異取扱いまでも禁止するものではない (場合によっては、実質的平等を達成するために、別異取扱いが要請されることすらある)。この講義では、<u>DEI の理念に基づき、多様なマイノリティに対する法的取扱いとその限界を検討する。実際に問題となった様々な具体的事例を基に、判決や学説を学ぶことで、平等／差別の問題に対する法的な観点からのアプローチを身に付ける。インクルーシブな社会を構想する上での法の役割についても考察する。</u>	授業の内容	男女間の格差や、性自認・性的指向、障害の有無、人種・民族・国籍、年齢を理由とした差別など、平等／差別をめぐる社会的な問題は、そのほとんどが法律をめぐる問題でもある。「等しいものを等しく扱え」(平等原則) は近代法の基本原理であるが、事の性質に応じた合理的な別異取扱いまでも禁止するものではない (場合によっては、実質的平等を達成するために、別異取扱いが要請されることすらある)。この講義では、<u>実際に問題となった様々な具体的事例を基に、判決や学説を学ぶことで、平等／差別の問題に対する法的な観点からのアプローチを身に付ける。</u>
(略)		(略)	
授業展開 (スケジュール)	第 1 回・第 2 回 (略) 第 3 回 「平等」の意味を考えるー形式的平等と実質的平等、合理的な区別と不合理な差別、DEI への法的アプローチ 第 4 回～第 12 回 (略) 第 13 回 <u>LGBT＋と平等②ージョグジヤカルタ原則、「性同一性障害特例法」を学び、考える</u>	授業展開 (スケジュール)	第 1 回・第 2 回 (略) 第 3 回 「平等」の意味を考えるー形式的平等と実質的平等、合理的な区別と不合理な差別 第 4 回～第 12 回 (略) 第 13 回 <u>LGBT＋と平等②ー「性同一性障害特例法」を学び、考える</u>
(略)		(略)	

参考図書	細かくは授業内で紹介しますが、全体に関わるものとして、さしあたり下記の図書を挙げておきます： ① 辻村みよ子ほか『概説ジェンダーと人権〔第2版〕』（信山社、2025年） ② ロナルド・ドゥウオーキン（小林公他訳）『平等とは何か』（木鐸社、2002年） ③ 渡辺康行ほか『憲法Ⅰ〔第2版〕』（日本評論社、2023年） ④ 宍戸常寿＝曾我部真裕編『判例ブラクティス憲法〔第3版〕』（信山社、2022年） ⑤ 水町勇一郎『詳解 労働法〔第3版〕』（東京大学出版会、2023年）	参考図書	細かくは授業内で紹介しますが、全体に関わるものとして、さしあたり下記の図書を挙げておきます： ① ロナルド・ドゥウオーキン（小林公他訳）『平等とは何か』（木鐸社、2002年） ② 渡辺康行ほか『憲法Ⅰ〔第2版〕』（日本評論社、2023年） ③ 宍戸常寿＝曾我部真裕編『判例ブラクティス憲法〔第3版〕』（信山社、2022年） ④ 水町勇一郎『詳解 労働法〔第3版〕』（東京大学出版会、2023年）
	(略)		(略)

4. 調査スキル科目「社会調査法A」及び「社会調査法B」について、一般的な調査手法に関する授業科目となっているが、本専攻の設置の趣旨に鑑み、DEI に関する課題を踏まえた内容となるように、科目の内容を改善すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、「社会調査法A（社会調査）」及び「社会調査法B（統計）」について、DEI に関する課題を踏まえた内容となるように科目の内容を改善し、基本計画書及びシラバスに追記・修正した。

(新旧対照表) 基本計画書 (p. 28)

新					旧				
授業科目の概要 (人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻)					授業科目の概要 (人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
調査スキル科目	社会調査法A（社会調査）		DEI 課題の所在の明確化と社会施策等の検証の両方に、社会調査は利用できる。 <u>社会調査の目的や意義を理解し、先行研究を踏まえてDEI の課題設定や仮説の生成を学修する、次に、コロナ禍以降 WEB 調査を含め増加している量的調査について、調査票の設計から実査、分析まで学ぶ。その上で質的調査の特徴とデータの収集方法および実査のプロセスを理解する。最後に、DEI を意識した調査結果の公表や調査倫理について学び、有意義で倫理に則った調査のあり方を検討する。</u>		調査スキル科目	社会調査法A（社会調査）		社会調査に対する構えとして、その目的や意義を理解し、先行研究を踏まえて問題設定や仮説の生成を学修する、次に、コロナ禍以降 WEB 調査を含め増加している量的調査について、調査票の設計から実査、分析まで学ぶ。その上で質的調査の特徴とデータの収集方法および実査のプロセスを理解する。最後に、調査結果の公表で気を付けることや調査倫理について学び、有意義で倫理に則った調査のあり方を検討する。	
調査スキル科目	社会調査法B（統計）		DEI 課題を実証研究ではどのように取り扱っているのか先行研究を概観した後、社会調査を行う上で必要な統計解析手法を学び、DEI に関連した研究テーマへの具体的適用を図る。 <u>関連領域の理論枠組みを基にして概念の操作的定義を決定し仮説設定を行った後は、適切な調査票を設計し収集したデータをコーディングして分析可能なフォーマットへと加工する一連の作業も実習する。データ</u>		調査スキル科目	社会調査法B（統計）		社会調査を行う上で必要な統計解析手法（ <u>多変量解析</u> ）を学び、 <u>各自の研究テーマへの具体的適用を図る。</u> 概念の操作的定義を決定し仮説設定を行った後は、適切な調査票を設計し収集したデータをコーディングして分析可能なフォーマットへと加工する。 <u>本授業では Excel を使用しての各種検定と重回帰分析までを基本の統計手法として扱う。</u>	

			分析の基礎も踏まえた上で、社会学をはじめ DEI 課題を扱う研究領域で広く使用される応用分析手法についても理解を深める。						
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(新旧対照表) シラバス (p. 49-54)

新		旧	
開講科目名：社会調査法 A（社会調査）		開講科目名：社会調査法 A（社会調査）	
(略)		(略)	
(略)		(略)	
履修条件 （授業に必要な既修得科目または前提知識）	授業に必要な既修得科目は特に設定していないが、調査を行うフィールドが想定されていることが望ましい。	履修条件 （授業に必要な既修得科目または前提知識）	
テーマ・副題	社会調査の基本的な考え方と方法の基礎を学ぶ。社会調査とは何のために行うのか、特に DEI の領域で調査に基づいて研究することの意義を理解し、資料やデータの収集から分析および結果の示し方まで、ひととりのプロセスを修得する。量的調査および質的調査の実践に関わる手順、さらには DEI を意識した調査倫理も含めて講義形式で説明する。	テーマ・副題	社会調査の基本的な考え方と方法の基礎を学ぶ。社会調査とは何のために行うのか、調査に基づいて研究することの意義を理解し、資料やデータの収集から分析および結果の示し方まで、ひととりのプロセスを修得する。量的調査および質的調査の実践に関わる手順、調査倫理も含めて講義形式で説明する。
授業科目の到達目標	1) DEI の観点から社会調査の意義と基本的な考え方を説明できる。 2) 調査法の基礎を理解し、研究の目的に合う適切な調査方法を選択できる。 3) DEI を意識した調査倫理を理解し、それに基づいて、調査計画を立て、研究を遂行できる。	授業科目の到達目標	1) 社会調査の意義と基本的な考え方を説明できる。 2) 調査法の基礎を理解し、研究目的に合う適切な調査方法を選択できる。 3) 調査倫理に基づいて、調査計画を立て、研究を遂行できる。
(略)		(略)	
授業の内容	DEI 課題の所在の明確化と社会施策等の検証の両方に、社会調査は利用できる。社会調査の目的や意義を理解し、先行研究を踏まえて DEI の課題設定や仮説の生成を学修する。次に、コロナ禍以降 WEB 調査を含め増加している量的調査について、調査票の設計から実査、分析まで学ぶ。その上で質的調査の特徴とデータの収集方法および実査のプロセスを理解する。最後に、DEI を意識した調査結果の公表や調査倫理について学び、有意義で倫理に則った調査のあり方を検討する。	授業の内容	社会調査に対する構えとして、その目的や意義を理解し、先行研究を踏まえて問題設定や仮説の生成を学修する、次に、コロナ禍以降 WEB 調査を含め増加している量的調査について、調査票の設計から実査、分析まで学ぶ。その上で質的調査の特徴とデータの収集方法および実査のプロセスを理解する。最後に、調査結果の公表で気をつけることや調査倫理について学び、有意義で倫理に則った調査のあり方を検討する。
(略)		(略)	
学生へのメッセージ	社会を捉えるのに社会調査は有用です。特に、DEI の社会課題を研究対象にする場合、社会調査の考え方を身につけることで研究の道筋が見えることもあります。身近な社会現象を例に取り上げ、架空の調査をイメージし、試行錯誤してみましょう。	学生へのメッセージ	社会を捉えるのに社会調査は有用です。社会課題を研究対象にする場合、社会調査の考え方を身につけることで研究の道筋が見えることもあります。身近な社会現象を例に取り上げ、架空の調査をイメージし、試行錯誤してみましょう。
(略)		(略)	

開講科目名：社会調査法 B（統計）		開講科目名：社会調査法 B（統計）	
(略)		(略)	
テーマ・副題	各 DEI 課題に応じた量的研究を実施するためのスキルの獲得	テーマ・副題	
授業科目の到達目標	1) DEI 課題を検討するにあたって、適切に統計分析の結果を解釈することができる 2) 調査票設計から集計・分析まで、取り扱う DEI 課題に適した量的データを各自調査課題に応じて適切に扱うことができる	授業科目の到達目標	1) 適切に統計分析の結果を解釈することができる 2) 調査票設計から集計・分析まで、量的データを各自調査課題に応じて適切に扱うことができる
(略)		(略)	
授業キーワード	量的研究、調査設計、データ処理、統計	授業キーワード	調査票、データ処理、基礎統計量、検定、重回帰分析
授業の内容	DEI 課題を実証研究ではどのように取り扱っているのか先行研究を概観した後、社会調査を行う上で必要な統計解析手法を学び、DEI に関連した研究テーマへの具体的な適用を図る。 関連領域の理論枠組みを基にして概念の操作的定義を決定し、仮説設定を行った後は、適切な調査票を設計し収集したデータをコーディングして分析可能なフォーマットへと加工する一連の作業も実習する。データ分析の基礎も踏まえた上で、社会学をはじめ DEI 課題を扱う研究領域で広く使用される応用分析手法についても理解を深める。	授業の内容	社会調査を行う上で必要な統計解析手法（多変量解析）を学び、各自の研究テーマへの具体的適用を図る。 概念の操作的定義を決定し仮説設定を行った後は、適切な調査票を設計し収集したデータをコーディングして分析可能なフォーマットへと加工する。本授業では Excel を使用しての各種検定と重回帰分析までを基本の統計手法として扱う。
(略)		(略)	
授業展開（スケジュール）	第 1 回 DEI 課題と量的研究の潮流・仮説の設定と調査票設計 第 2 回 データコーディング・概念の操作的定義と調査プロセス・データクリーニング 第 3 回 仮説設定と各種検定（t 検定・ χ^2 乗検定）、変数の加工 第 4 回 サンプルデータを使用する単回帰分析・重回帰分析・ロジスティック回帰分析 #1 第 5 回 サンプルデータを使用する単回帰分析・重回帰分析・ロジスティック回帰分析 #2 第 6 回 サンプルデータを使用する共分散構造分析 #1 第 7 回 サンプルデータを使用する共分散構造分析 #2 第 8 回 分析結果の解釈と記述	授業展開（スケジュール）	第 1 回 仮説の設定と調査票設計 第 2 回 データコーディング 第 3 回 変数の操作と基礎統計量 第 4 回 t 検定 第 5 回 χ^2 乗検定 第 6 回 重回帰分析 I 第 7 回 重回帰分析 II 第 8 回 ふりかえり・分析結果の解釈と記述
(略)		(略)	
学生へのメッセージ	本授業は「データサイエンス」の入り口となるものです。統計分析の初歩を扱う前半ではソフトへのアクセシビリティも考慮して Excel を用いますので各種分析も挑戦しやすくなっています。自身の研究課題はもとより他の論文でデータに基づきどのような結果が示されているのか、それを適切に理解できるということも大切にします。	学生へのメッセージ	本授業は「データサイエンス」の入り口となるものです。Excel を用いて実施しますので各種分析も挑戦しやすくなっています。自身の研究課題はもとより他の論文でデータに基づきどのような結果が示されているのか、それを適切に理解できるということも大切にします。
(略)		(略)	

5. 基盤課題科目「生物多様性とネイチャーポジティブ」や専門課題科目「バイオダイバーシティ論」等の生物多様性について扱う授業科目について、当該科目と DEI との関連性と、これらの科目の位置づけを明示すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、生物多様性について扱う授業科目と DEI との関連性とこれらの科目の位置づけを、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(2) 教育課程の特色」p.31-32 に明示するよう追記した。

なお、生物多様性について扱う授業科目は、DEI における価値と構造を共有している。これらの科目は、現代社会における喫緊かつ複合的な課題として、学際的・実践的なアプローチが求められる領域にあり、社会的多様性と自然的多様性を横断的に捉え、DEI の視点を地球規模の共生へと拡張する学際的な教育課題として位置づくものである。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (p. 31-32)

新	旧
(2) 教育課程の特色 本専攻の教育課程は、理論的理解を基盤としつつ、それを実践的応用へと展開していく往還的な学修構造を特徴としており、この点は以下の<u>5</u>つの特色に具体化されている。 (略) <u>第5の特色は、「生物多様性」や「ネイチャーポジティブ」を DEI の課題と横断的に関連づけ、教育課程に組み込んでいる点にある。社会的多様性と生物多様性はいずれも、単一性・画一性によって生じる脆弱性を克服し、多様な存在が共存することで持続可能な社会・生態系を構築しようとする点で共通しており、その根底には、包摂・尊重・共生といった価値の共有がある。このような原理的共通性に基づき、両者を横断的に</u>	(2) 教育課程の特色 本専攻の教育課程は、理論的理解を基盤としつつ、それを実践的応用へと展開していく往還的な学修構造を特徴としており、この点は以下の<u>4</u>つの特色に具体化されている。 (略)

<u>学ぶことは、現代的課題への実践的応答に</u> <u>つながる。こうした視点は国際的にも広まり</u> <u>つつあり、2022 年採択の「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」では、「女性、若者、</u> <u>先住民の参加」「ジェンダー平等」などが生物</u> <u>多様性政策の柱として明示されている。これ</u> <u>を受けた日本の「生物多様性国家戦略 2023-</u> <u>2030」や埼玉県の「生物多様性保全戦略 2024-</u> <u>2031」とも連動し、本専攻は人間と自然の関</u> <u>係性を含む広義のダイバーシティを探究す</u> <u>る教育を通じて、地球規模課題に対応できる</u> <u>次世代の DEI 実践者を育成することを目指し</u> <u>ている。</u>	
--	--

6. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

「社会福祉とウェルビーイング」については、当初予定していた教員が「不可」(理由：関連する業績が不足)の判定を受けたため、本専攻の他の専任教員である准教授の担当授業科目に「社会福祉とウェルビーイング」を追加することにより対応する。当該教員は、社会福祉学(学士)の学位及び介護福祉士、社会福祉士の資格を有し、重度訪問介護者としての実務経験を持つ。また、「社会福祉専門演習」「ジェンダーと社会福祉」といった科目の教育経験は「社会福祉とウェルビーイング」を担当するにふさわしい基盤となる。さらに、当該教員の研究領域であるケア論・ケアの倫理・ケアの正義論の視点は、社会福祉分野で近年重視されており、「社会福祉とウェルビーイング」という科目の充実に資する。